

第12回 IWA汚泥会議に 参加して

資源環境研究部
総括主任研究員
齊藤 実



水と下水汚泥の持続可能な マネジメントをテーマに

IWA主催の「第12回汚泥会議」が、8月8日から3日間にわたって、中国のハルビンにて開催されました。この会議は、「水と下水汚泥の持続可能なマネジメント」をテーマとして掲げ、4セッションに分かれて、107の口頭による研究発表と56のポスター発表が行われました。

日本からは、本機構をはじめ、土木研究所、国土技術総合研究所、滋賀県、東北大学、京都大学、大阪大学、大阪工業大学、福井工業大学、日本上下水道設計、クボタなどから総勢14名が参加しました。

汚泥の利用で2テーマを発表

下水道機構からは、内田、齊藤の2名が参加し、「バイオマスマタン発酵施設に関する研究」、「汚泥の改質乾燥技術に関する研究」の2テーマをポスター発表しました。世界の関連技術者との意見交換を通して、どきどきしながらも新技術に対する知見を深めることができました。



ポスターセッションの様子

上海市の南匯排水処理場を視察

南匯排水処理場は2008年末に改造改築工事が完成し、既存の5万m³/日の凝集沈殿+植物（アシ）浄化処理を20万m³/日規模の2次処理に改造したものです。

排水処理方式は「改良型A₂O機能付きの曝気式OD」プロセスとし、汚泥処理にはフィルタープレス式の脱水処理を採用して、汚泥の減量化および安定化を図るものとなっています。また、臭気対策としては、生物脱臭方式を採用しています。

この処理場の完成により、上海市南匯区の排水処理率が大幅に向上し、COD排出負荷量の削減につながったとのことでした。



南匯排水処理場の鳥瞰図

中国の下水道事業は、事業そのものはもちろん、事業化の行程、予算関係、権力構造など、どれも日本のものとは異なっていました。

しかし、日本の高度成長期を窺わせる雰囲気があり、現在の中国経済の勢いというものを肌で感じる事ができました。